

①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる [KPI] 人口の社会増減:117人(年平均:H27-H30)→現状数の維持(年平均:R2-R6)	(1) 良好な住環境の整備促進 [KPI] 20~40歳代の人口	「りっとう空き家バンク」を活用した移住・定住の促進	市内における空き家の減少及び人口定着	りっとう空き家バンクでのマッチングによる成約数 1件	0件	所有者と宅建業者との間で媒介契約が締結され、成約に向けた取り組みが進んでいる。	住宅課
	(1) 良好な住環境の整備促進 [KPI] 20~40歳代の人口	子育て・若年世帯空き家リノベーション補助事業の実施	駅周辺及び金勝地域内における空家の減少及び人口定着	子育て・若年世帯空き家リノベーション補助事業の利用 1件	0件	空き家バンクへの登録件数を増やすための周知啓発を進める。	住宅課
	(1) 良好な住環境の整備促進 [KPI] 20~40歳代の人口	空き家利活用モデル事業を通じて、関連事業者やNPO等との連携促進	農山村風景の保全や地域コミュニティの活力向上、子どもや高齢者の居場所づくりなど	協定に基づく耐震改修設計の実施	設計業務と並行して関係機関との協議、調整等を進める中で、事業推進が困難となった。	相手方の財産に関わる事業であることから、十分な調整が必要であった。	住宅課
	(1) 良好な住環境の整備促進 [KPI] 20~40歳代の人口	くりちゃんバス等の利便性向上への取り組み〔動態調査の実施〕	利用状況を把握し、利用実態に即した運行サービスを提供する。	年2回(5月・10月)動態調査を実施	第1回目として5月に実施	新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年同様利用者が減少する中で、新しい生活様式に応じたくりちゃんバスの運行を検討する必要がある。	交通政策課
	(1) 良好な住環境の整備促進 [KPI] 20~40歳代の人口	社会基盤となる道路ネットワークの整備促進	都市計画道路等幹線道路の整備により交通利便性を向上させる。	全体事業費に占める事業費割合: 5.86%	14.60%	用地交渉に時間を要す。年内に契約できるよう進める。	道路・河川課
	(2) 地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信 [KPI] まちの中で自分が愛着や誇りを感じているものを言える市民の割合	馬とのふれあいができる公園整備の事業計画策定等	馬を活用した公園を整備することで、利用者が馬を身近に感じ、「馬のまち」としての愛着や誇りを高める。	基本設計の着手と進捗	事業計画(事業化及び事業展開)の調査・検討中	事業展開にあわせた財源見直しについて、一定の見直しを立て、市計画として位置付けをする必要がある。	都市計画課(企業立地推進課)
	(2) 地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信 [KPI] まちの中で自分が愛着や誇りを感じているものを言える市民の割合	公共施設を活用した民間事業者によるホースセラピー事業の展開	馬を活用した民間事業者による放課後等デイサービス・児童発達支援事業を通じて、利用者が馬を身近に感じることで、「馬のまち」としての愛着や誇りを高める。	ホースセラピー事業の継続 ・放課後等デイサービス: 契約者数170人、総利用件数4,200件 ・児童発達支援: 契約者数70人、総利用件数1,800件	・放課後等デイサービス: 契約者数162人、総利用件数2,125件 ・児童発達支援: 契約者数53人、総利用件数639件	コロナ禍であるが、総利用件数は減っていない。学校の授業時間の変更や休校等による児童送迎のオペレーションが煩雑になっている。	元気創造政策課
	(2) 地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信 [KPI] 観光消費額	ふるさとりっとう応援寄附制度等を通じた「馬のまち」のPR〔市制20周年記念・馬カードの活用〕	ふるさと納税や馬カードを通じて馬のまちとしての本市の魅力を感じ、興味・関心を持っていただくことで、本市への来訪・滞在につなげ、消費を促す。	①ふるさと納税における馬関連の返礼品取扱事業者数 7社以上 ②市イベント等で馬カード(3,000枚)を活用する。	①7社 ②10月以降に活用予定。	②新型コロナウイルス感染症の拡大により、10月から活用予定だった市イベントの中止・縮小があり、活用する内容について再検討している。(記念式典や市イベントでの配布の他、観光施設等での額縁展示を検討)	元気創造政策課
(2) 地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信 [KPI] 観光消費額	ふるさとりっとう応援寄附制度等を通じた「馬のまち」のPR〔市制20周年記念・馬カードの活用〕	馬カードを通じて馬のまちとしての本市の魅力を感じ、興味・関心を持っていただくことで、本市への来訪・滞在につなげ、消費を促す。	馬カード(27万枚)を活用し、プレミアム付商品券取扱店舗において配布する。	12月から配布予定。	カードを配布することで県外市外からの誘客によってさらなる地域経済の活性化を目指しているが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、事業の周知方法などを検討する必要がある。	商工観光労政課	

	①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
9		(2) 地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信 [KPI] まちの中で自分が愛着や誇りを感じているものを言える市民の割合	市の広報大使「うますぎる栗東大使」や協働型Facebook「うますぎる栗東」を活用した市の魅力発信	市の広報大使「うますぎる栗東大使」や協働型Facebook「うますぎる栗東」を活用して市に魅力を発信することで、市民の市に対する愛着や誇りの醸成を図る。	Facebookのいいねの件数 11,000件/年以上	Facebookのいいねの件数 6,543件(4~9月合計)	「うますぎる栗東大使」については、本年度委嘱期間が終了する方が3名おられ、この継続と合わせた今後の対応についての検討が必要。また、市民記者ミツケーターについては、年々投稿数が減少している現状があることから、活性化に向けた取り組みが必要である。	秘書広報課
10		(2) 地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信 [KPI] 観光消費額	こんぜめぐりちゃんバスや旧和中散本舗特別公開など、地域の特性や魅力を活かした事業等の支援	来訪者の増加とリピーターの獲得	こんぜめぐりちゃんバス利用者：800人 旧和中散本舗特別公開来場者：800人	こんぜめぐりちゃんバス利用者：419人 旧和中散本舗特別公開来場者：688人	春期は実施できたが、秋期は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言期間中により、旧和中散本舗特別公開は中止し、めぐりちゃんバスについては、緊急事態宣言解除後、運行を再開する予定。	商工観光労政課
11		(2) 地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	ごみの減量化・資源化の推進〔家庭用廃食用油リサイクル〕	廃食用油をバイオディーゼル燃料にリサイクルすることでごみの減量化、資源化と温室効果ガス削減につなげている。	廃食用油回収量2,200ℓ/年	廃食用油回収量4,508ℓ	本年度より市内回収拠点を増設(10→11箇所)し、回収量も順調に増加している。	環境政策課
12-1	【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる [KPI] 人口の社会増減：117人(年平均：H27-H30) → 現状数の維持(年平均：R2-R6)	(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	地域包括支援体制の推進〔地域包括支援センターの機能強化〕〔在宅医療と介護の連携〕〔障がい福祉関係機関による相談支援の実施〕〔支え合いの仕組みづくりをする専門職の配置〕	委託地域包括支援センターの資質向上を図ることで、支援が必要な人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる。	圏域ケア会議の実施回数 36回	7回	委託地域包括支援センターが個別支援や居宅介護支援事業所を後方支援するにあたって、本人らしい暮らしを実現するということを念頭に置いて、各種事業や支援を行ってもらうには時間がかかる。	長寿福祉課
12-2		(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	地域包括支援体制の推進〔地域包括支援センターの機能強化〕〔在宅医療と介護の連携〕〔障がい福祉関係機関による相談支援の実施〕〔支え合いの仕組みづくりをする専門職の配置〕	障がいのある人が、地域で必要なサービスが受けられるよう、自立した生活を支援する。	基幹相談支援センター、地域活動支援センター設置による総合的、専門的な相談支援の実施。 相談支援機関による相談延べ件数9,900件	自立支援協議会 定例会4月、6月、8月 運営会議6回 相談支援部会3回 相談支援機関による相談延べ件数4,893件	自立支援協議会の開催にあたり、感染症対策としてオンラインで実施することや、地域の課題等の継続した取り組みが必要。	障がい福祉課
13		(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	高齢者の社会参加促進による介護予防の推進〔栗東100歳大学の実施〕〔介護支援ボランティア事業等の推進〕	元気な高齢者が虚弱な高齢者を支援する取り組みにより、地域でのささえあいがある安心して暮らせるまちづくりとともに、社会活動を通じたいきいきと暮らせるまちづくりの推進を図れる。	介護支援ボランティアの活動登録者数380人	447人	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、説明会を複数回実施し登録者の増加につなげたが、施設での活動が制限されたため、あらたな活動先について考える必要がある。	長寿福祉課
14		(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 健康寿命の延伸	高齢者自らの健康づくりの継続的な取り組み支援〔いきいき百歳体操等の実践の推進〕	高齢者自らの健康づくりの継続的な取り組みが図れる。	いきいき百歳体操の実践団体数前年度75団体	75団体	地域によっては、コロナ禍以降、一度も再開できない自治会もあり、休止期間が長引くと活動自体が終了する団体が出てくるのが懸念されるため、各団体にコロナ禍における活動再開に向けた情報提供を行う。	長寿福祉課
15		(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	認知症になっても安心して暮らせる地域づくり〔事業者や住民と連携して認知症高齢者を見守る「共生」の地域づくりと専門職による相談体制づくりの推進〕〔認知症サポーター養成講座等市民啓発の実施〕	認知症になっても安心して暮らせる。	認知症サポーター数4,300人	5092人	新型コロナウイルス感染症拡大状況をみながら小学校や民間企業と調整しながら実施していく。	長寿福祉課

①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる [KPI] 人口の社会増減:117人(年平均:H27-H30)→現状数の維持(年平均:R2-R6)	(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	地域福祉活動や地域づくり、まちづくりへの参画の仕組みづくり(コミュニティソーシャルワーカーの配置支援)	住民主体の地域福祉活動をサポートするとともに、情報共有や支援者と支援を必要とする人との結び付きを通じて、必要な人に支援が届く体制を作る。	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)による、相談・訪問同行・面談の実施	相談:353件 訪問同行:6件 面談:16件	新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、今迄からの課題に加え、コロナ禍での困りごとなど相談内容が複合化しているケースもあり、課題を整理し関係機関につないでいるが、施策や制度の適用にならない課題もあり、傾聴を中心に支援を行っている。また、就労支援やひきこもりの方への支援についても、専門機関等と連携することが重要である。	社会福祉課
	(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	生活支援体制整備事業の実施[生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)による住民の主体的な取り組みの支援]	互いに助け合うまちづくりの推進を図れる。	地域支え合い推進員と多様な主体が連携し、新たに開発した社会資源数3	新たに開発した社会資源数1(介護予防を実施する自主活動団体)	コロナが収束した後、住民主体の通い場や支え合いが生まれるような仕掛けを検討しておく必要がある。	長寿福祉課
	(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI]	手話の啓発、コミュニケーション支援の推進	手話を必要とする人が安心して暮らすことができる。障がいのある人が、自分に合ったコミュニケーション手段が使いやすいくなる。	手話奉仕員講座(入門課程)の開催 盲ろう通訳・介助者派遣事業の実施 筆談ボードの購入、窓口設置	手話奉仕員養成講座(入門課程) 受講者16名 全21回中10回開講(休講7回) 盲ろう通訳・介助者派遣事業要綱設置	コロナ禍での手話講座受講生のフォローアップ	障がい福祉課
	(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	市民団体によるまちづくり活動の支援[未来へつなぐ市民活動応援事業の推進]	ふるさと納税(ふるさとリットう応援寄附)の新たな用途として、事前登録の市民活動団体を選択可能とする。継続してほしい市民活動をふるさと納税を通じて応援できる。市民活動団体にとっては活動継続のための新たな資金調達の手段となり、市民が安心して暮らせるまちづくりのための安定した公益活動が可能となる。	ふるさと納税(ふるさとリットう応援寄附)を活用した市民活動団体登録団体数2団体以上	令和4年度実施社会貢献活動実施団体公開プレゼンテーション(令和3年10月9日)に際して、今年度における新規登録申請団体は0団体。	予備的候補団体があり、団体の活動サイクルにも一定考慮した広報が必要がある。引き続き新たな市民活動団体の掘り起こし、既存活動団体への制度の啓発PRが必要である。	自治振興課
	(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 健康寿命(平均自立期間)の延伸	社会教育施設の整備[国民スポーツ大会へ向けた市民体育館の改修]	市民体育館の改修を行うことで国民スポーツ大会に向けた準備が進むだけでなく、スポーツをする、見る、支えるための市民体育館の利用者が増え、健康寿命の延伸に繋げることができる。	令和4年度の工事完了に向けて改修工事を予定通りに進めていく。	10月現地入りのための準備工事並びに利用者及び周辺自治会への周知。	工事に伴って体育館が利用できなくなるという事で利用者に不便をお掛けすることになること。	スポーツ・文化振興課
	(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進 [KPI] 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合	「第五次輝く未来計画」の推進	[第五次輝く未来計画]の策定により、住み慣れた地域での人権意識が高まることにより、生活全般で安心できる。	人権・同和教育5ヵ年計画「第五次輝く未来計画」の周知・実践	広報リットう5月号に「第五次輝く未来計画」スタート記事掲載 「ストップコロナ差別!」差別防止啓発ポスターに電子データ閲覧用コード掲載	地区別懇談会用教材「輝く未来(教材編)」での周知を計画していたが、コロナ禍により地区別懇談会での取組が進んでいない。年度内に活用予定。	人権教育課

①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる [KPI] 合計特殊出生率 : 現状値の維持(1.98)	22 (1) 妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援 [KPI] 待機児童数	各小学校区に設置している児童館の機能充実〔家庭内保育の保護者をはじめとする子育てに関する各種相談への対応や事業の展開、及び児童虐待の未然防止〕	・子育て支援事業をHPや広報などで広く知らせ、ニーズに合わせた講座の開催や巡回相談の充実を図ることで、子育ての不安や負担を軽減することができる。	・市内3か所の地域子育て支援センターが連携、協力し、子育て相談や子育て講座(年36回)など事業の実施 ・子育てサークルの育成と支援、協働による事業の実施	・子育て講座14講座を実施(8,9月の3講座は中止) ・7月、9月に関係機関との連携を図り、相談内容について集計する	・子育てサークルの育成やサークル立ち上げに係る支援を通して、保護者が自主的に活動できるように努める。 ・相談内容の集計と分析を通して、子育ての実態を把握し、関係機関と共有することが必要である。	子育て応援課
	23 (1) 妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援 [KPI] 待機児童数	学童保育所・地域子育て支援センター・児童館の充実〔運営の充実及び施設の維持補修〕	・老朽化による施設の修繕をはじめ、学童保育を必要とする児童が利用できる環境を整えることにより、子育てと仕事の両立を支援する。 ・児童館・子育て支援センターにおいて、健全な遊びや親子の交流の場を提供することにより、子育て支援や親育ちを支える。	・市立学童保育所の維持補修 ・市立児童館の維持補修 ・各児童館(9館)における親子ふれあい活動の計画、実施	・治田西学童保育所の屋根修繕を実施 ・葉山児童館床の貼り換え(1室)と屋根の改修工事を実施	・放課後の居場所として、子どもたちに健全な遊びや遊びの場を提供していく必要がある。 ・父親の子育てに関する悩みや不安などを把握し、講座に参加できるようにする。	子育て応援課
	24 (1) 妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援 [KPI] 待機児童数	民間活力の導入〔民間事業者が運営する私立保育園等の新たな施設整備〕	第2期栗東市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育の受け皿整備を進め、本市の待機児童の解消につなげ、子育て環境を支援する。	新規私立保育所の整備数 認可保育所 1園	認可保育所 1園 (令和3年4月開園)	令和4年4月開園予定の認可保育園2園のうち、1園の事業予定者から辞退の申し出を受けた。設置場所、規模、開園・整備時期等の再精査が必要である。 (参考) 待機児童数 R3.4.1現在 13人	幼児施設課
	25 (1) 妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援 [KPI] 待機児童数	就学前教育・保育の人材(潜在保育士含む)の確保〔保育関連就職説明会や研修会の実施〕	潜在保育士研修を開催し、就職支援を図り、市内園の保育人材の確保に繋げる。	9月大学講師及び市内看護師等による座学研修会(4回)実施 10月市内園にて保育体験(3日間)実施	潜在保育士研修の開催は、1月に延期としている。5月の就職フェアに参加し、17名の就職相談を受け、人材確保につなげた。	コロナ禍で集合研修をすることができなかったため、お仕事相談会を実施し、個別の相談を受けるようにしている。今後も感染対策を考慮した中で、人材確保に向けた取り組みを進めていく必要がある。	幼児課
	26 (1) 妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援 [KPI] 待機児童数	福祉医療費の助成〔小中学生の医療費の一部助成、乳幼児医療費の一部負担金の助成〕	福祉医療費助成により、子どもの健やかな成長と健康保持、及び保護者の子育てに関する経済的負担の軽減を図ることで、子育てしやすい環境を整える。	子ども医療費において、小学1~3年生には従来の入院費助成に加え、令和2年4月1日から通院費助成を実施。乳幼児福祉医療費助成は継続して実施。	受給者数 子ども2,198人 乳幼児4,692人	受給資格者には案内文を送付しているが、本人名義の被保険者証の発行待ちのため、受給券の引渡しができいない乳幼児がいる。	保険年金課
	27 (2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備 [KPI] 授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合	学ぶ意欲や基礎学力の向上及び「きらりフルチャレンジ」「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の推進	全国学力・学習状況調査が例年より1か月遅れの5/27(木)に実施された。児童質問紙の回答を読み解き、各校の授業改善につなげていく。	「くりちゃん検定」(4月・9月・1月)の実施、認定に向けた学習支援員の派遣。 連携推進ネットワーク会議の立ち上げ。「栗東子育て教育ビジョン」(試案)を成案にし、「活用ガイドブック」の試案を完成する。	「くりちゃん検定」(4月・9月)を実施。4月の認定率は99%。 「活用ガイドブック」の試案を作成。	今年度、全国学力・学習状況調査が2年ぶりに実施されたが、昨年度のコロナ禍における休校等の影響もふまえて、より分かりやすい授業を目指し、授業改善に各校で取り組む必要がある。	学校教育課
	28-1 (2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備 [KPI] 授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合	学校施設・設備の充実〔公立学校施設大規模改造事業の推進、GIGAスクール構想で配備した機器の利活用〕	全国学力・学習状況調査が中止となったため、数値把握ができていないが、コロナ禍であったものの例年並みの状況であると認識している。	一人1台端末の整備、校内高速インターネット環境の整備完了	各校においてGIGAスクール推進委員会を中心に、市内全教職員および全児童生徒において活用が進められている。	各校、あるいは各個人で活用の意欲や頻度に差があるため、全体としての活用状況の向上が必要となっている。	学校教育課

①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
28-2	(2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備 [KPI] 授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合	学校施設・設備の充実〔公立学校施設大規模改造事業の推進、GIGAスクール構想で配備した機器の利活用〕	児童・生徒数の増加に応じた小学校・中学校の施設整備により、適正な教育環境の確保を推進する。	主要大規模改造事業(トイレ洋式化事業含む)6校	治田小、治田西小、大宝西小の体育館トイレ、栗東西中の校舎棟トイレの4校整備済。	施工業者、学校、利用者との綿密な調整及び工事中の安全確保	教育総務課
29-1	(2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備 [KPI] 授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合	給食等を通じた食育の推進〔地元食材を活用した給食等〕	生産と消費の関わりや、伝統的な食文化について理解を深めることができる。	「栗東食材の日」を中心に食育を進める。	各校で食育を進められている。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生産者等との会食や鍋給食を中止する予定。	学校教育課
29-2	(2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備 [KPI] 授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合	給食等を通じた食育の推進〔地元食材を活用した給食等〕	地産地消を推進し、子どもたちの郷土への理解と愛着を育む。	年間を通じて、地元食材を活用した給食提供を行う。	季節に合わせて、地元食材を活用した給食提供が行えています。	食育授業と学校給食が連動することで理解を深める。	学校給食共同調理場
29-3	(2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備 [KPI] 授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合	給食等を通じた食育の推進〔地元食材を活用した給食等〕	園で栽培活動をした野菜を自園給食に使用したり、各園で給食の食材等について保育の中で子どもに語りかけたりすることで、食への関心や食べる意欲を高めていく。	12か園で栽培活動は行っていたが、コロナ禍でクッキング活動はできず、自園給食の園のみ給食の材料としてとりいれてもらうことができた。各園、それぞれ食育計画に基づき、食育の取り組みを行っており、子どもたちへ食の大切さを伝えている。	各園において、栽培活動を行い、収穫を喜ぶ体験を行うことができた。収穫野菜を給食の食材として取り入れられたり、家庭に持ち帰ったりして、食べる関心を高めることができた。	現段階では、クッキング活動をしていないため、子どもたちの食に対する興味をさらに引き出すために、他の教材研究を行い保育の中で実践していくことが求められる。	幼児課
30	【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる [KPI] 合計特殊出生率：現状値の維持(1.98)	(2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備 [KPI] 授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合	生産者と消費者の交流の促進〔農業体験事業や伝統食・郷土料理体験〕	たんぼのこ体験事業や、農業体験が可能な教育環境を提供することができる。	たんぼのこ全小学校(9校)で実施	たんぼのこ体験事業を全小学校(9校)で取組中	農林課
31	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	様々な発達支援サービスの提供	相談員や専門員による発達相談・検査や巡回支援を実施し、効果的な支援方法により教育・子育てに対する安心を育む。	巡回専門員派遣回数 100回	巡回専門員派遣回数 55回	早期発見・早期対応のための助言等が効果的に支援に繋がるよう支援力の向上に努める必要がある。	発達支援課
32	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	不登校児童・生徒等に対する支援〔学校サポート支援員の設置〕	不登校生徒在籍率の低減	市内小中学校に27名配置。不登校・不適応児童生徒に対する支援を進める	市内小中学校において支援を実施することができている	不登校児童生徒は増加傾向にあり、教室または別室において、個別の支援を行うための人的資源が不足している	学校教育課
33	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	いじめ対策の推進〔いじめ等対策参事員の設置〕	いじめの初期対応を的確に行い、いじめ要因での不登校児童生徒を出さない。	いじめ要因の不登校児童生徒がいない	6月から7月にかけていじめに係る学校訪問を市内各小中学校を対象に実施した。	いじめ認知件数は増加傾向にあり、被害児童の支援・見守りのため教員の負担が増大している。	学校教育課
34	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	特別支援教育の推進〔特別支援教育支援員の設置〕	特別支援教育対象生徒への支援を行い、不登校を防ぐ。	特別支援教育支援員を各校に1名+特別支援学校の就学要件(学校教育法施行令第22条の3)を満たす児童生徒が2人以上在籍する各学級に追加で1名を配置。	集団内での支援や個別の別室指導を行い、困っている子どもの支援を行うことができた。しかし、特別な支援を要する子どもが多く、支援が十分に行き届かない。	小学校の段階で学級集団を小さくしたり、ティームティーチングを行ったり、各校に専門性の高い職員を配置する等の根本的な改革をしなければ予防的な効果は期待できない。	学校教育課

①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
35 36 【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる [KPI] 合計特殊出生率 : 現状値の維持(1.98)	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	不適応児童・生徒の支援〔スクールソーシャルワーカーの設置〕	家庭環境要因による不登校生の低減	スクールソーシャルワーカーを1名配置。家庭環境要因による不登校、不適応児童生徒への支援および保護者への助言等を実施し、不登校・不適応児童生徒の低減を目指す。	市内中学校を中心に生徒、保護者への支援を実施するとともに、関係機関との連携をすすめることができた。	支援を要する児童生徒数に対し、スクールソーシャルワーカーの配置数が少なく、子どもたちに、十分な支援がいきわたらない。また、スクールソーシャルワーカーに対する負担も大きい	学校教育課
	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	子どもへの学習支援及び保護者も含めた生活習慣・育成環境の改善に関する支援の実施	家庭教育支援員を配置し、保護者、家庭への支援を充実させる	家庭教育支援員を1名配置。子どもへの学習支援及び保護者への相談・支援を行う。	学校と保護者が協力して子どもの育ちを支えることができた。	支援を要する保護者や家庭が増加しており、十分な支援とは言えない。	学校教育課
	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	公共施設を活用した民間事業者によるホースセラピー事業の展開【再掲】	馬を活用した民間事業者による放課後等デイサービス・児童発達支援事業を通じて、利用者が馬を身近に感じることで、「馬のまち」としての愛着や誇りを高める。	ホースセラピー事業の継続 ・放課後等デイサービス：契約者数170人、総利用件数4,200件 ・児童発達支援：契約者数70人、総利用件数1,800件	・放課後等デイサービス：契約者数162人、総利用件数2,125件 ・児童発達支援：契約者数53人、総利用件数639件	コロナ禍であるが、総利用件数は減っていない。学校の授業時間の変更や休校等による児童送迎のオペレーションが煩雑になっている。	元気創造政策課
	(3) すべての子どもの育ちの支援 [KPI] 不登校生徒在籍率(中学生)	福祉や教育分野における馬の活用検討	子どもたちが日ごろから親しみのあるぬりえという方法を用いて、馬に対しての関心や愛着を高める。	馬のイラストを用いてぬりえを作成し、市内12か園での遊びに使う。	ぬりえのイラスト作成やどのような機会を使って取り組んでいくのか、各園で検討中である。	各園で馬に親しみをもつ取り組みについて、昨年度の方法以外にも子どもたちが楽しんで取り組めることがないか検討をしていく。	幼児課
39-1	(1) 就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出 [KPI] 就業者数	ワーク・ライフ・バランスの実現〔働き方改革や多様な働き方への理解を進めるとともに、女性活躍を推進〕	家事や育児、介護等について女性に負担が偏らないよう男性が積極的に参画する意識啓発や育児・子育て等に関する情報発信により、男女共同参画意識が醸成され働きやすく「誰もが自分らしく生きることができる社会へ」つなげていく。	女性活躍セミナー開催(1回) 、女性活躍(育児・子育て)応援情報の啓発発信、男女共同参画社会づくり啓発チラシの増刷、企業啓発	市内企業404社への啓発チラシの配布啓発(7月企業訪問)	下半期におけるコロナ禍の状況を見極めながら女性活躍セミナーの開催手法や企画について検討していく必要がある。	自治振興課
39-2	【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる [KPI] 事業所立地数 : 現状数の維持(2,838件)	ワーク・ライフ・バランスの実現〔働き方改革や多様な働き方への理解を進めるとともに、女性活躍を推進〕	仕事と生活の調和が推進され、生活の充実と仕事の効率の関係性に好循環が構築される。	啓発パンフレット等の配布事業者数404者	働き方改革に係る情報提供事業者数 404者	新型コロナウイルス拡大の影響で7月実施予定の企業訪問を中止し配布した。感染状況によるが、2月には実施予定とする。	商工観光労政課
40	(1) 就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出 [KPI] 就業者数	トップセールスの展開と企業の立地促進	企業立地推進計画に基づき、新たな企業の進出や既存市内企業の拡張等に対応することで、企業立地と雇用を拡大する。	企業立地推進計画に基づく産業集積に向けた地域まちづくりの支援等	・地区計画策定支援 2件 ・まちづくり委員会支援 2件 ・工場立地法準則緑地基準緩和条例の制定	立地相談に対応し、地域の合意形成をもとに開発等が進むよう十分な調整を図る。	企業立地推進課
41	(1) 就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出 [KPI] 就業者数	東部地区等開発整備の促進	東部地区における新たな産業用地の整備を促進し、企業立地と雇用を拡大する。	東部地区新産業拠点における接続道路及び、工業用水道施設等のインフラ整備の進捗と東部地区工業団地(B・Cゾーン)の開発整備に係る地権者合意及び事業者合意調整	個別開発が可能となる条例整備対応済。 ・都計法34条12号の指定 ・産業拠点整備に関する条例制定	県企業庁に依頼する工業用水道整備の計画進捗及び県の応分の負担調整。	企業立地推進課

①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる [KPI] 事業所立地数：現状数の維持(2,838件)	(1) 就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出 [KPI] 就業者数	市内企業の人材確保支援〔市内企業の魅力情報発信〕	市内企業の良さと魅力情報を発信することで、働き手確保に苦慮されている市内企業の人材確保を支援する	掲載事業者数80者	掲載希望申込者数30者	市内でのさらなる雇用創出に向けて、今年度の冊子作成を予定通りに進めていく。	商工観光労政課
	(1) 就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出 [KPI] 就業者数	中小企業・小規模事業者の生産性向上支援〔中小企業者等の先端設備投資への支援〕	先端設備等の投資への支援を継続し、市内中小企業者等の労働生産性の向上を図る	認定件数20件	認定件数9件	年度中間において認定件数は概ね計画通りとなっており、引き続き制度の周知等を行っていく。	商工観光労政課
	(1) 就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出 [KPI] 就業者数	公共施設を活用した民間事業者によるホースセラピー事業の展開【再掲】	馬を活用した民間事業者による放課後等デイサービス・児童発達支援事業を通じて、利用者が馬を身近に感じることで、「馬のまち」としての愛着や誇りを高める。	ホースセラピー事業の継続 ・放課後等デイサービス：契約者数170人、総利用件数4,200件 ・児童発達支援：契約者数70人、総利用件数1,800件	・放課後等デイサービス：契約者数162人、総利用件数2,125件 ・児童発達支援：契約者数53人、総利用件数639件	コロナ禍であるが、総利用件数は減っていない。学校の授業時間の変更や休校等による児童送迎のオペレーションが煩雑になっている。	元気創造政策課
	(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出 [KPI] 市内事業所の総売上額	関係機関等の連携によるサポート体制と相談体制による支援〔りっとう経営なんでも相談会の実施〕	関係機関と連携し事業承継や販売戦略など、経営上のあらゆる悩み事に相談できる体制を構築することで、市内中小企業者のビジネスチャンスの拡大を図る	相談件数24件	相談件数7件	相談件数が予定より少ないため、制度のさらなる周知を行う必要がある。	商工観光労政課
	(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出 [KPI] 市内事業所の総売上額	経営基盤の強化と資金の支援〔信用保証料助成制度の実施〕	中小企業等が金融機関から融資を受けた場合の信用保証料を一部を助成することで、中小企業等の負担を軽減し、経営基盤の強化を図る	助成件数35件	助成件数5件	申請件数が予定より少ないため、制度のさらなる周知を行う必要がある。	商工観光労政課
	(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出 [KPI] 市内事業所の総売上額	創業活動への支援〔創業支援融資利子補給金制度の実施〕	市内で創業する事業者が受けた融資の利子の一部を補給し、事業者の負担の軽減と経営の安定を図る	創業者数31人 創業支援等事業計画	創業者数 11人	さらなる創業者の増加に向けて、商工会と連携した創業者への状況把握や窓口相談者等への各種支援制度の周知を行う必要がある。	商工観光労政課
	(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出 [KPI] 消費生活における市内での購買割合	個店の魅力向上〔まちゼミ事業の実施〕	地域や商業の活性化につながるまちのにぎわいを生み出すため、個店の魅力を向上させ、顧客獲得につながる取り組みを行う。 また、既存のイベントの継続や関係団体との連携などを通じて、商店街等に人が集まり、滞留する仕掛けづくりを進めます。	まちゼミ参加店舗数20店	参加登録店舗数20店	11月から商工会が事業を実施予定であり、事業の周知を連携して進めていく必要がある。	商工観光労政課
	(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出 [KPI] 消費生活における市内での購買割合	空き店舗等対策の拡充〔空き店舗等活用促進事業補助金制度の実施〕	栗東市内の駅周辺の賑わい創出と地域経済活性化に向けて、指定区域内における空き店舗等の減少及び商環境の向上を図る	補助件数9件	補助件数5件	年度中間において申請件数は概ね計画通りとなっており、引き続き制度の周知等を行っていく。	商工観光労政課

①基本目標及び数値目標(KPI)	②計画期間中に取り組む施策及び重要業績評価指標(KPI)	③令和3年度に実施予定の特徴ある取り組み	④取り組みにおけるKPI達成に向けた効果(想定)	⑤令和3年度の目標(到達点・活動指標(アウトプット))	⑥中間実績(R3.9月末時点)	⑦中間実績時点での課題等(R3.9月末時点)	担当課
【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる [KPI] 事業所立地数 : 現状数の維持(2,838件)	(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出 [KPI] 消費生活における市内での購買割合	地域経済の再活性化に向けたさらなる支援[りっとうプレミアム付商品券2021への支援]	新型コロナウイルス感染症による影響から、元気な地域経済を取り戻すことを目指して、栗東市商工会とともにプレミアム付商品券を年間に3回発行する。	商品券取扱店舗数300店	店舗数296店	今年度の事業実績や参加店舗や商品券購入者へのアンケート調査を実施した結果などを踏まえて、次年度に向けた地域経済の活性化の取り組みを検討していく必要がある。	商工観光労政課
	(3) 農林業の振興支援による活性化の推進 [KPI] 農地集積率(累計)	総合的な「農業振興基本計画」の策定及びこれに合わせた「農業振興地域整備計画」の見直し	農業の振興と整備に関する計画を策定し、農業分野における各種課題の解決を図り、担い手の育成や農業生産の向上を図る。	令和2年~3年の2か年計画での後半年として、計画策定を完了する	計画策定業務としての進捗率 概ね70%	コロナ禍により、関係者の意見を聞く委員会等の開催が難しくなっている。	農林課
	(3) 農林業の振興支援による活性化の推進 [KPI] 農地集積率(累計)	集落営農組織の法人化と認定農業者への支援[営農規模の拡大や農産物の増産による生産の効率化及び販路拡大促進]	農業の担い手である集落営農や認定農業者を支援することにより、農業の活性化を推進する。	集落営農組織の法人化数 認定農業者の計画認定数	集落営農 5法人 認定農業者 24経営体 ※国県認定の者を除く	営農組織・認定農業者の高齢化等により、組織では活動持続が課題となっており個人では認定継続を終了するケースがあり、法人化・認定数は頭打ち気味となっている。	農林課
	(3) 農林業の振興支援による活性化の推進 [KPI] 農地集積率(累計)	認定農業者等の農業の担い手に向けた支援強化[農業機械・施設園芸の整備に係る補助事業の拡大]	農業の担い手である認定農業者への支援を強化することにより、農地の集積をはじめ、担い手の経営強化を図る。	認定農業者向け補機械助実施数 3経営体	認定農業者向け補機械助実施数 0経営体	認定農業者向けに補助対象を拡大し、周知等に努めている。補助希望者・要望者については事業申請・受付を継続している。	農林課
	(3) 農林業の振興支援による活性化の推進 [KPI] 市内事業所の総売上額	6次産業化の推進	1次産業である農業に加工と販売を加えることにより農業者所得の向上に繋げることができる。	栗東市農業振興会を通じ6次産業化の研修会を実施する。	未開催 ※6次に関連しJAと特産物の商標化について協議中	コロナ禍により、集合研修の開催が困難となっており、事業実施の見通しが立たない。	農林課
	(3) 農林業の振興支援による活性化の推進 [KPI] 農地集積率(累計)	土地改良事業の推進[ほ場整備、用排水路の整備]	滋賀県が事業主体で実施している六地蔵地先におけるほ場整備事業の支援。	区画整理工 A=2.5ha	区画整理工A=2.5haの県営工事を完了。	事業地での埋文調査や県道拡幅計画があることから、事業実施期間延長の可能性が高まっている。	農林課
	(3) 農林業の振興支援による活性化の推進 [KPI] 就業者数	新たな森林管理システムを活用した森林整備の推進[森林境界の明確化、林地台帳整備等]	森林整備に関する放置林の境界の確定及び林地台帳整備の森林境界明確化を進めることにより、森林保全を図ることができる。	林地台帳整備委託事業及び境界明確化委託事業として実施	委託事業に向けて発注準備中(積算)	昨年度までの実施状況を踏まえて地元関係者等の調整が必要。また、森林環境贈与税基金を活用した更なる境界明確化推進等の検討を要する。	農林課
	(3) 農林業の振興支援による活性化の推進 [KPI] 就業者数	こんぜの里周辺施設の公共施設マネジメントの推進	野外活動及び観光の拠点である、こんぜの里の管理運営の適正化を進め、健全経営に繋げることができる。(こんぜの里道の駅、バンガロー村)	指定管理施設の運営更新	次期指定管理者選定に向け、スケジュール通り進捗中。	今後決定する指定管理施設の選定結果を勘案し、こんぜの里周辺の在り方検討に繋げる必要がある。	農林課